

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E112L017		栽培学(実習を含む。)(Crop Science)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2	3	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 市原靖士, 中原久志 E-mail nakaharah@oita-u.ac.jp(中原) 内線												
授業の概要	主な夏作物の栽培実習を通じて栽培学の基礎を理解し、中学校技術・家庭科技術分野における「栽培」の指導に必要な栽培技術を習得する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 作物栽培の基本的な栽培計画が立てられる。																		
目標2 作物栽培の基礎と栽培管理技術を指導できる。																		
目標3 作物栽培と土壌・食糧・環境・人間生活との関わりを指導できる。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 実習計画及び農機具の安全使用、実習の安全管理の理解																		
2 畑作りの基礎と土壌管理、肥料設計1																		
3 畑作りの基礎と土壌管理、肥料設計2																		
4 イネの播種と育苗																		
5 ダイズの播種と育苗																		
6 ナス、トマトの定植																		
7 ナス、トマトの生育調査・管理																		
8 イネ・ダイズの移植																		
9 栽培管理・調査																		
10 栽培管理・調査および土壌肥料																		
11 栽培管理・調査および植物生理																		
12 栽培管理・調査および農薬および遺伝子組み換え																		
13 ダイズ(エダマメ)の収穫と調査																		
14 イネ、ナス、トマトの生育調査・収穫																		
15 イネ、ナス、トマトの生育調査・収穫																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	実際の学校現場での栽培授業中に起こる問題点を講義や実習の中で議論していく。また、その解決用法をお互いに模索し、実習の改善につなげていく。					工夫	その										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	実習に必要な道具や作業手順の確認、施肥設計に20分程度。																
	事後学修	栽培日誌記録や収量調査のデータ整理など30分。降雨が少ない場合は、3日に一回、10分程度の水やり作業が必要																
教科書	なし																	
参考書	新版 作物栽培の基礎 堀江武編 農山漁村文化協会																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	実習評価	30%																
	発表	10%																
	試験	60%																
注意事項	屋外での実習が毎回実施される。安全に農作業ができる服装(長袖、長ズボン、帽子、長靴あるいは運動靴、軍手、タオルを必ず持参)を各自準備する。蚊が多いので虫刺し防止策を各自で準備する。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	